

報道関係各位

2021年4月14日

国立大学法人 東京医科歯科大学

「歯科医院の違いで、定期歯科健診を受診するかが異なる」 — 患者個人の要因以上に、歯科医院の歯科衛生士要因が強く関連 —

【ポイント】

- これまで歯科医院への定期健診受診に影響する要因は、患者個人の教育歴や収入といった社会経済的要因の関連が報告されていました。
- 患者要因に加えて歯科医院要因を調べた本研究により、定期歯科健診の受診には、歯科医院の歯科衛生士数が多いこと、歯科衛生士専用ユニットがあること、歯科保健指導の時間が長いことが強く関連することが明らかになりました。
- 本研究から定期歯科健診の受診を促すためには、患者教育だけでなく、歯科医院における歯科衛生士の増員や働き方の改革が必要だと考えられます。

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科健康推進歯学分野の相田潤教授の研究グループは、愛知学院大学、九州大学、国立保健医療科学院、明倫短期大学、大阪歯科大学、深井保健科学研究所との共同研究で、定期歯科健診受診の要因として歯科医院側の要因が強く影響することを明らかにしました。この研究の一部は厚生労働行政推進調査事業費補助金(19FA2001)の支援のもとでおこなわれたもので、その研究成果は、国際科学誌 International Journal of Environmental Research and Public Health(インターナショナルジャーナルオブエンバイロメンタルリサーチアンドパブリックヘルス)に、2021年3月10日にオンライン版で発表されました。

【研究の背景】

歯科医院への定期健診の受診に影響する要因は、患者個人要因に焦点を当てた研究が大部分であり、教育歴や収入といった社会経済的要因の関連が多く報告されてきました。しかしながら、歯科医院側の要因は十分に検討されていませんでした。

そこで本研究は、歯科健診受診に影響する要因に、患者個人の年齢や性別、教育歴や経済状態に加え、歯科医院側の要因として、歯科衛生士数、歯科衛生士専用ユニットの有無、歯科保健指導の時間(一般的に、歯科衛生士が存在するほど長い)との関連を明らかにすることを目的としました。

【研究成果の概要】

本研究は、8020 推進財団が 2014 年に実施した「歯科医療による健康増進効果に関する調査研究」のデータを使用しました。これは歯科医院を対象とした調査と患者を対象とした調査の 2 つの調査から構成され、1,181 歯科医院の 12,139 人の患者を対象に調査が行われました。患者-歯科医院-都道府県の階層構造を考慮した 3 レベルのポアソン回帰分析を用いて、歯科衛生士関連要因と患者の定期歯科健診の受診行動の関連を検討しました。

解析に含められた 12,139 人の歯科患者の内(平均年齢 55.4 歳。男性 35.7%、女性 64.3%)、治療に通っている患者は 63.0%、定期検診を受けている患者は 37.0%でした。解析の結果、患者個人の年齢や性別、教育歴や経済状態を調整したうえでも、歯科衛生士専用ユニットがあり、歯科健康教育に 20 分以上かけていて(0 分と比べて)、歯科衛生士が 3 人以上いる歯科医院(0 人と比べて)で定期検診を受けた患者の存在率比(prevalence ratio(PR))は、それぞれ 1.17(95%信頼区間[CI]:1.06-1.30), 1.25(95%CI:1.07-1.46), 2.05(95%CI:1.64-2.56)で有意に高い結果でした。また、患者が定期歯科健診を多く行っている歯科医院に移ると、定期健診をするようになる確率は 1.69 倍に増加することが推定されました。これらの結果から、歯科健診行動は、個人的な要因だけでなく、歯科医院側の要因によっても決定されることが示唆されました。

【研究成果の意義】

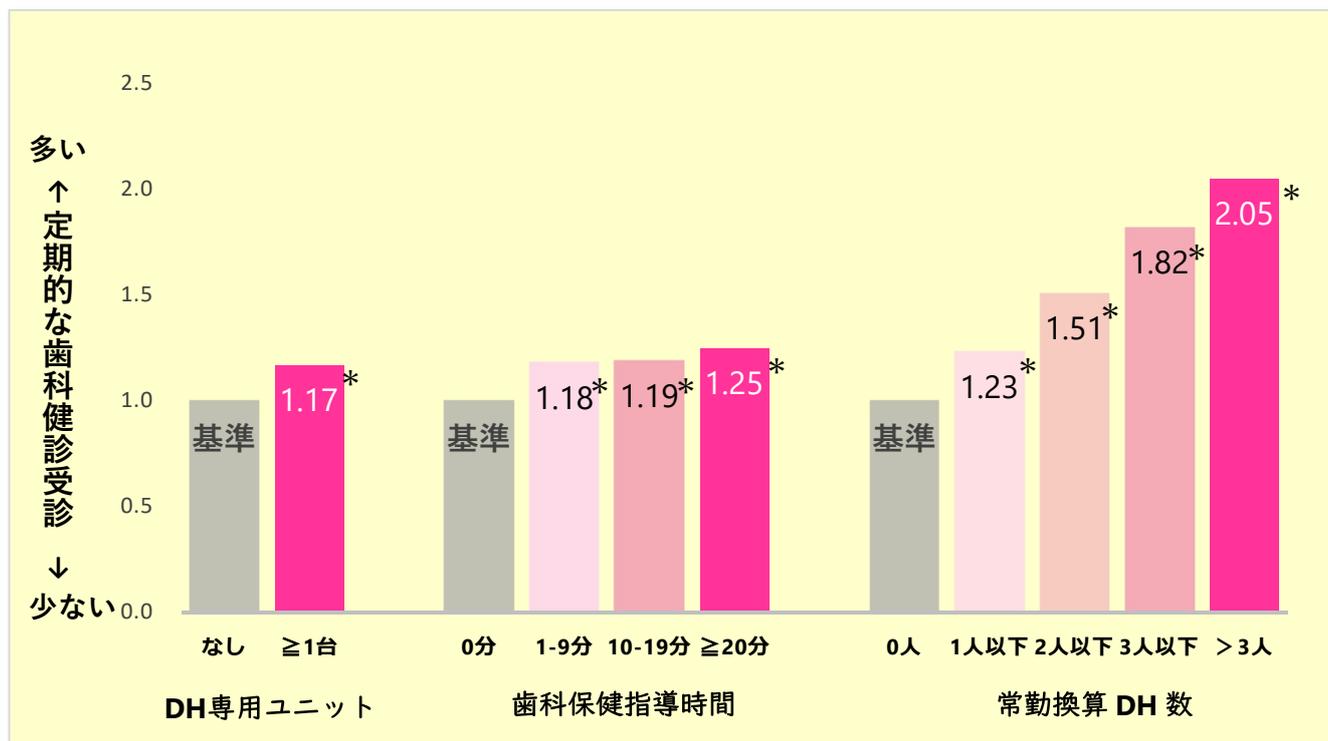
全国規模の調査を用いた本研究は、定期歯科健診の受診行動に関連する要因として、個人の年齢や性別、社会経済的要因などに加え、歯科医院側の要因として、歯科衛生士数が多いこと、歯科衛生士専用ユニットがあること、歯科保健指導の時間が長いことの強い関連を示した研究です。

歯科定期健診の受診は健康日本21などの政策にも盛り込まれていますが、これを促進するためには、患者教育だけでなく、歯科医院における歯科衛生士の増員や働き方の改革が必要だと考えられます。

表 1. 歯科受診理由と歯科衛生士関連要因との関連のクロス集計

	治療 7,651人(63.0%)		定期健診受診 4,488人(37.0%)	
	人数	%	人数	%
歯科衛生士(DH)専用ユニット				
なし	5,921	65.6	3,102	34.4
1台以上	1,730	55.5	1,386	44.5
歯科保健指導時間				
0分	1,510	71.9	590	28.1
1-9分	2,531	63.1	1,483	37.0
10-19分	2,394	60.7	1,553	39.3
20分以上	1,217	58.5	862	41.5
歯科衛生士数(常勤換算)				
0人	1,072	78.2	298	21.8
1人以下	1,833	72.5	697	27.6
2人以下	1,734	64.2	967	35.8
3人以下	1,373	57.1	1,031	42.9
3人より多い	1,639	52.3	1,495	47.7

図1. 定期的な歯科健診受診と歯科衛生士関連要因との関連；
 定期歯科健診の受診には歯科医院の環境が影響する傾向



*：統計学的に有意・・・得られた結果が偶然ではないことを示します。

年齢、性別、主観的経済状況、学歴、歯科医師数(常勤換算)の影響を考慮した解析です。

【論文情報】

掲載誌: International Journal of Environmental Research and Public Health

論文タイトル: Multilevel Analysis of the Association of Dental-Hygienist-Related Factors on Regular Dental Check-Up Behavior

【研究者プロフィール】

相田 潤 (アイダ ジュン) Aida Jun

東京医科歯科大学大学院

健康推進歯学分野 教授

・研究領域

社会疫学、歯科疫学



井上 裕子(イノウエ ユウコ) Inoue Yuko

東京医科歯科大学大学院

健康推進歯学分野 大学院生

・研究領域

歯科疫学、公衆衛生学



【問い合わせ先】

＜研究に関すること＞

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
健康推進歯学分野 相田 潤 (アイダ ジュン)
TEL:03-5803- 5476 FAX:03-5803-5477
E-mail: aida.ohp@tmd.ac.jp

＜報道に関すること＞

東京医科歯科大学 総務部総務秘書課広報係
〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45
TEL:03-5803-5011 FAX:03-5803-0272
E-mail: kouhou.adm@tmd.ac.jp